

足立巻一  
え・津高和一非惡心童  
物語25  
手品

ぼくたちは「惡童」ではなかった。  
しかし「善童」でもなかった。

多くの手もとに、一冊の草表紙の手帳が残っている。  
どうやら、小学五年生のころのものらしい。

ページのはじめには、各少年雑誌の投書細則がびっしり張りこんである。

『少年倶楽部』（講談社）

『不思議之國』（金蘭社）

『日本少年』（実業之日本社）

『少年文壇』（少年文壇社―名古屋市）

『少年世界』（博文館）

『親友』（姫路市材木町、市場春風方、親友詩社）

『中学生』（研究社）

『赤い鳥』（赤い鳥社）

『金の船』（金の船社）

『小学五年生』（小学館）

『群青』（神戸市川西通二丁目四ノ四一、大森春治）

『美談』（美談社）

自分ながら、こんな数多くの少年雑誌の投書規定をよく集めたものと感心する。五年生のくせに『中学生』というのや同人雑誌だったと思われる『親友』や『群青』というのにまで目をつけている。おそらく、このリストは大正末年の少年雑誌のほとんどでもあるだろう。

その投書細則の募集種目をみると、『少年倶楽部』で

前号まで、父は二六新報という新聞の同人であったが、ぼくの生後四カ月で急死。母は実家に帰り、祖父母に育てられる。小学一年生のとき、祖母も死に、祖父につられて故郷長崎に引きあげたが、その祖父も急死し、孤児となる。親戚の寺や染物屋で養われていたが、急に神戸の母の実家へ引き取られ、そこから諏訪山小学校へ通うことになった。同級のトオルさんと友達になり、絵を描いたり、タルマツチをしたりして、毎日毎日遊んだ。中でも生田神社の森やおまつりは僕達の好奇心をおおっていた。また、阪妻に魅せられて場末の映画館をまわったり、覆面遊びをしたりしたのもこの頃である。このようにしてぼく達の旺盛な好奇心は、遊びや、遊び仲間を通して日毎に季節毎に新しい経験と知識を与えてくれる。

は、短文、少年詩、和歌、滑稽和歌、童謡、童心句、ものは付、通信（各地の風俗習慣、本誌への註文、読者と記者とのお便り何でもよろし）となっており、『不思議之國』では、これに笑話、頓智問答、冠句、漫画が加わり、『日本少年』では少年小説、学校で印象の深かった話、書簡文、狂句、話の種、僕の経験、各地不思議くらべ、珍らしい名前くらべ、僕の好きな歴史の一章、あだなくらべ、少年顧問局、クロスワードと多様をきわめている。『小学五年生』では、これに日記、図画、書き方もある。これに対し、鈴木三重吉が編集して日本の児童文学史に功績を残した『赤い鳥』では、さすがに綴方、自由詩、創作童謡、創作童話、作曲の五種目に限られ、



その抱負がうかがわれる。しかも、「童謡中の方言は標準語に直さないこと。難解の語には註解をおつけおき下さい」と注意しているのは、いま考えてりっぱである。

細則にはかならず賞品が明記してある。

『少年倶楽部』の場合は、優等五名に賞牌と賞状、秀逸十五名に五十銭の図書あるいは図書切符と賞状であり『日本少年』では少年小説五円、少年詩三円、ほかに結城素明画伯考案の特製銀メダルがあり、メダル五個で銀側腕巻時計と引きかえらうとたつてある。そのなかで、『赤い鳥』だけは賞品を示さず「優秀な人々には、赤い鳥で作家作曲家としての地位を与え、社会に推薦します」と書いて見識を示している。

とにかく、どの雑誌も少年の投書欲をあふり立てることにつとめ、ほくはそれに乗せられたというだけではなかったが、その投書一覧をにらんでほ緒切り日を追って片っぱしから投書したのだ。

おおかたはボツであった。

が、それでも毎月どの雑誌かには掲載され、それを切り抜いて手帳に張っている。図画、ものは付、和歌、童謡といった類だが、いま読めば当然ながらどれも幼稚をきわめ、ここに再発表するわけにはいかない。

ただ、そのなかに「少年手品師」と題する短文が張りつけてあるが、この少年のことはいままぼくの記憶から消えてはいない。

その短文は「少年文壇」に掲載されたものだったと思うが、つぎのように書きおとしている。

『ジャンジャンジャン広場』の方で鐘が鳴った。それはナンキンの手品師であることは僕等にわかっていた。▽

この「広場」とは生田神社の東門の前のことである。

その「鐘」とはドラであって、その音はいまもぼくの耳の底で鳴っている。

『僕等ぐらいの子供が一人、弟らしい七才ぐらいの子供がしきりに鐘をたたいて人を呼んでいる。』

鐘はへこみ、バチはカンナのかけてない棒切。水色のよくれた支那服にちびた支那靴。

兄とも思われる十二、三の少年はしきりにしゃべっている。

道具は皆古い。父の使っていたもので、父は死んだかそれとも病気のせいで。綿の上に赤いさらしをかぶせ、くちたオワンをさかさまにして、一つずつオワンの中に入れて行く▽

どうもまずい子どもの文章で恐縮だが、書いていることは事実なのである。そのころ、手品を見せては金をもらう中国人の子どもの兄弟がいたのだ。手品といっても綿を赤い布でくるんだ玉をオワンに入れ、その数をあてさせるといった他愛ないものである。

△「コレ一ツ入レルアル。コレ幾ツアル」

兄の方がしゃべった。すると群衆の中から小僧らしい男が

「二ツアル。今イレタ」

なまぬるい日本語で答えた。彼は種を見付けられたの





である。少年手品師は、二度とそのオワンをあげようと思せず、静かに袋の中に入れた。▽

中国人の子どもは、一つの玉を見せびらかしながらオワンに入れた。当然、見物人は一つと答えてくれるつもりだった。そのとき、少年はさつと二個を入れたのだが、それは見ていたばかりにも見破れた。そのとき、ぼくには奇妙な動悸が打った。自分がしくじったような、冷や汗が湧く思いがあった。案のじよう、「二ツアル」というヤジがとんだのだ。

そのとき、ぼくはさつきの動悸を忘れて怒った。日本人のくせに、たどたどしいカタコトをマネたことが、とりわけ憎々しく思われた。その小僧は芝居の悪党のようであった。

こんどは弟のほうがドラをたたくのをやめ、突然に胸を張った。

△「コレ、上手アルナ」

兄がいった。そうだった時には、弟の方はさか立ちをしていた。

弟は足をおろして今度は立ったまま、からだをそらして頭を地につけた。

△「コレ、上手アルナ」▽

しかし、まばらな見物人は、さらにひとり、ふたりと立ち去るばかりであった。

△弟の方はくぼんだ鐘を一人の男の前へ持って行って頭を三度下げた。

「何をッ！」

その男は叫んで、その場を去った。弟は一回りして集めたお金を手品をしている兄に見せた。五六銭、銅貨がはいっていた。▽

兄は一銭一銭、袋のなかへ入れた。

△そして手品を途中でやめて袋を下げてどこかへ立ち去った。▽

ぼくの幼稚な短文はそれで終わっているが、ぼくがその中国人の兄弟を見たのは、そのときのただの一度だけ

# オール関西

10月号予告



## ★万国博特集

- 座談会／外国人の見た日本万国博
- 各パビリオン案内
- 180日に挑む人—催物プロデューサー・渡辺美佐

故井植歳男三洋電機会長を偲ぶ会

好嵐対話／花柳有光—高田好嵐

関西の話題／市政50周年を迎えて頑張る特訓明石市長

- 京阪神百貨店拡張、今だけなわ
- 大阪に蘇村公園を
- 神戸ガイド特集
- 関西フューチャー展望

## ★好評連載企画

名作の中の関西・大谷晃一／画家との一時間・石井馨

ボンソワール・マダム

• 向井修二の仲間診断

• グループ登場

• 上杉典子の中近東イラスト紀行

小説／「若き日の道長」田中あや子

コラム／マスコミ探点簿・経済・科学・音楽・美術

万博の動き

関西のすべてをガイドするタウンカレンダー

ゴルフ・カー・麻雀・競馬／神戸ショッピングガイド

神戸百貨店ガイド／ニューショッピングガイド

である。ふたりがそれからどうしたかは知らない。  
そのときも、トオルさんと見ていた。

弟のほうが、両手を力いっぱいひろげ、腰に両手をあて、ゆっくり上体をうしろへそりくりかえらせ、ついにその頭が地面に達したとき、ぼくはひどく感心した。  
すると、トオルさんが小声で教えてくれた。

「あの子は、毎日、スウのんだるんや」

「ス？」

「スをのむと、骨がやらかうなる」

そのコトバはぼくを刺した。

あのすっぱいスを飲めば、どうして骨がやわらかくなるのか？

それにもまして、少年がそのすっぱいスをクスリのように飲まなければならぬことが、ひどくむごい仕業のように思えた。

ふたりの中国人の子どもが立ち去ったあと、動物園の動物たちがいちように持つ物悲しい毛のにおいが、その場には残っているように感じられた。

ぼくたちは、中国やタイワンや朝鮮やヨーロッパの子どもたち、アルカッシャのようなアビシニヤ人ともなか

よく遊んだ。だが、そこにも一種の軽蔑感を沈めていなかったとはいえない。

いつであつたか、トオルさんと諏訪山小学校へ登校する途中、下山手通三丁目の同文学校の前をとおりかかったとき、固くとどされた校門のなかからは、キヤッキヤツと遊ぶ声があふれていた。

ぼくはなんという気もなしに、電車道いっぱいにまかれていた小石を両手ですくいあげ、校門のなかへ投げこんだ。

と、校門がさっとひらかれ、怒号とともに黒い服を着た大集団があらわれ、雨雲のように殺到した。

ぼくとトオルさんとは一心に走った。

背後の怒号が消えたのは、諏訪山小学校の校門にとびこんだときであつた。

この記憶は、いまもぼくににがしい。

その日から二十年ちかくのち、日華事変がおこり、ぼくは華北山西省の戦線に投げこまれ、三年間を戦った。敵の城市を占領するごとに、あのぼくを追った大集団の怒号がよみがえり、それから少年手品師の声が折りふれて耳の奥で鳴った。「コレ、上手アルナ」／つづく▽





ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！

## 三恵洋服店

元町4丁目 TEL ☎ 7290



あらゆる体型に  
フィットする  
お誂えシャツ



紳士洋品の店

## 千穂庵

元町4 TEL ☎ 6959



Mr. Kent  
came to Kobe  
流行に左右されない  
本来のオシャレ  
それがKentです  
シックな  
スコッチ風の店舗  
それがFunakiyaです

オシャレ洋品の店

## フナキヤ

元町3 TEL ☎ 333617



高級紳士服専門店

## 神戸テーラー

さんちかメンズタウン TEL ☎ 0388  
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL ☎ 2817・3173



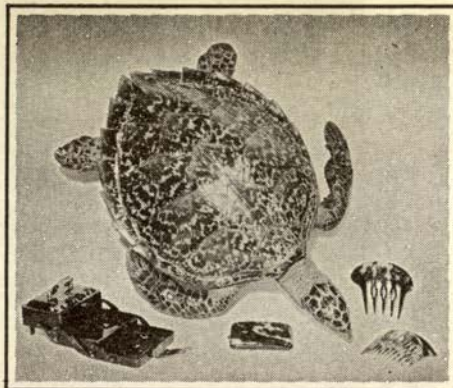
創作ハンドバッグ  
工芸品 ORIGINAL

神戸 ■ 元町

ACCESSORIES

イクシマヤ

TEL. (33) 2415・2416



センスあふれる

ベッ甲専門店

太田 鼈甲店

元町1丁目 TEL ㊿6195

アクセサリーの店

三モガ

神戸大丸前  
TEL (39) 9719



高級  
ハンドバッグ

海外旅行用  
大型トランク  
航空鞆



いなみ 大上鞆店

神戸元町1丁目 TEL (33) 3962~4  
さんちかメンスタウン・ポートタワー  
大阪千日デパート1階





おもちゃの

カメラ

三宮方面でのお買物は……  
 さんちが店 フォタミリータウン 094045  
 三宮店 センター街大洋劇場東隣 094969  
 元町方面でのお買物は……  
 元町店 元町通3丁目山側 090090  
 パンプウ店 元町通1丁目不二家前 090768



およろこびの日の  
 美しい贈り物に  
 カメラの人影を

創業明治二十八年

# 履物の山下

古い老舗に新しいセンス

神戸 三宮センター街

TEL 09 0256

確実正札 完全冷暖房  
 静かに品選びの出来る店

## ■インテリアデコレーション

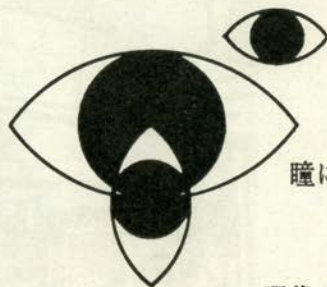
合鍵と錠前



カギヤ  
金物店

# カギ屋金物店

KOBE 三宮・トア・ロード 33 0193・6507  
 OSAKA 心齋橋そごう地下一階

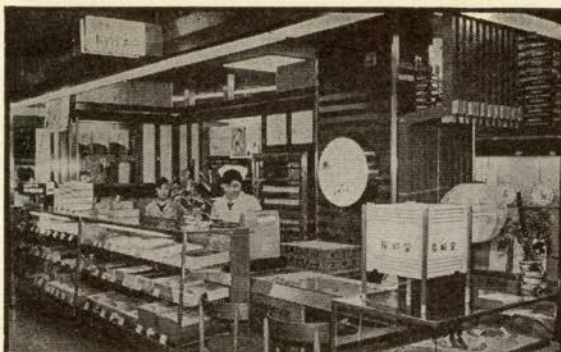


瞳に美しさを保つ  
 スポーツに  
 美容に  
 現代の科学が生んだ  
 コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員

## 国際コンタクトレンズ研究所

神戸市灘合区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)  
 神戸国際会館内 TEL (22) 8161・(23) 2570



ご贈答に風味豊かなカステーラ

## 長崎堂 本店

本 店=大橋町5大五ビル (61) 0553-4  
 新開地店=松 竹 座 前 (56) 2 4 2 3  
 元 町 店=元 町 6 (34) 4 1 3 0  
 さんちかスイーツタウン (39) 3 6 2 5



亀の井 亀井堂 本家

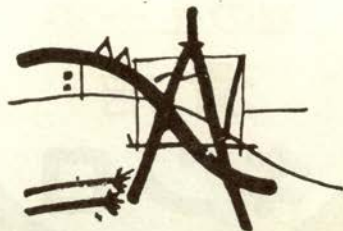
神戸三宮トーア ロード  
 本店 33-0001  
 電話 南店 33-1616  
 さんちかスイーツタウン  
 電話 33-6532

The  
**Cosmopolitan**  
 Valentine F. Morozoff

## コスモポリタン チョコレート・キャンデー

神戸本社	神戸市生田区三宮町1丁目170	電話 33-5304
神戸直売店	神戸市生田区三宮町1丁目	電話 33-1217
大阪堺筋店	大阪市東区淡路町2丁目	電話231-6979
大阪心斎橋店	大阪市南区安堂寺橋通4丁目	電話251-4182
東京銀座店	東京都中央区銀座8丁目	電話571-2303
東京新宿店	東京都新宿区角筈1丁目 新宿ステーションビル地下2階	電話352-2436
東京有楽ビル店	東京都有楽町 有楽ビル	電話213-2821
東京国際ビル店	東京都丸ノ内 国際ビル	電話212-3746

額縁絵画・洋画材料  
 室内工芸品



末 積 製 額

三宮・大丸北  
 トア・ロード  
 ☎1309・6234



神戸っ子のみんなに愛される落ちついた喫茶店



ai

TEA ROOM

喫茶 愛

★神戸・元町本通元一ビル2階 TEL (32) 0958

おすし  
てんぷら

榮 彌



支店	本店
さんちか	大丸前・三宮神社東
味ののれん街	
(毎週水曜日休み)	
TEL 539	TEL 533
5	5
2	7
3	7
3	2

営業時間  
A.M. 11.30 ~ P.M. 9.

色・味・香り

三つ揃った

灘の生一本

清酒

キンロ

■神戸市東灘区魚崎町魚崎356  
金露酒造株式会社

でんわ・  
232333  
1006354  
ムサシ

やっぱりうまい  
むさしのとんかつ



## グラムール

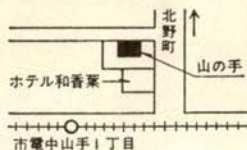
生田筋・岸ビル地階 TEL 33-4637



SNACK  
**YAMANOTE**

神戸市生田区中山手1丁目

ソネビル TEL 22-3637



スタンド

## ばんびー

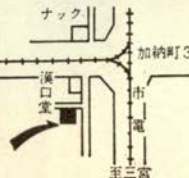
神戸市生田区下山手1丁目6の5  
東新ビル地階 TEL 39-8734



JAZZ BOX  
**Candy**

神戸市生田区加納町3丁目2

TEL 33-3371





連載小説〈Ⅱ〉

# 夏の別れ

石 浜 み か る  
え・石 阪 春 生



昼食時の職員室前は、この日貼り出された一学期末考査の成績表に見入る生徒でざわめいていた。

「がんばったね」

松木の表情は明るく、嬉しそうでさえあった。

「まぐれよ」

「こうなったら、書記どうしてもやってもらいたいな」

松木の言葉に小首をかしげながらも、胸の異常な昂ぶりはどうしようもなく、私の中で何か解放的思いがぐんぐん拡がっていった。

「松木さん、どうして調さんにたのまないの。一番ふさわしいわ、あの人が。成績は私のような気まぐれじゃないし、クラスの世話もよくしているわ」  
私たちは黙って、薄暗い階段を登った。

「判った」

★前回まで 旧制中学の「質素剛健自重自治」の伝統をもった名門校に入学した城崎さち子の周りには、はや大学受験にあくせくする親友たちがいた。ある昼下り、成績揭示板の前で一番の成績を維持しているサッカー狂の松木清之との出会いが、さち子の心を揺るがせた。そんな時、生徒会長に立候補することを決めた松木から、書記になってもらいたい、といわれるが、さち子は暗に調筆子の名をあげて松木から離れた。

松木はちよつと立ちどまり、私の方に傾いた。その声は柔かく、寛容な響きを持っていた。この人は私のことをすっかり理解してくれているのだという思いが、私の中で、急速に拡がり、溢れていった。

「ごめんなさいね」

私は素直になり、松木は、黙ったまま白い歯をキラリと光らせた。

開票が終って夏休みまで、あと一週間しかなかった。

その間、松木と他の役員たちは事務引き継ぎに忙殺されていた。それを見ながら、私は取り残されたような寂しさ、筆子に対する妬ましさを感じた。その妬ましさには、入学早々の和子の件以来、筆子の本体をいささか見誤っていたのではないかと不安がいつもつきまとっていた。それゆえ、廊下で、ユーカーリの樹の下で、スタンドで、悪臭の湊川の傍で、多忙な松木と交す五分、十分の立ち話が私にはひどく貴重な宝のように思え、別れたあと、その言葉をいくたびも反芻した。短かい時間の中の凝縮された会話の濃密さを思い出すだけで、私の体は熱くなることさえあった。

夏休み開始後の十日間を、私はある外人家族とともに瀬戸内海の島で過ごした。

神戸の西の外れにあるジェームス山は外人たちの居住地で、私は月に二回、そこにあるY家で四人の子供のベビシッターのアルバイトをしていた。それは勿論、英語の勉強をかねてのことであった。

Y氏は父の仕事の関係の知り合いだった。Y氏が支店長をしているP汽船の新造船が、父のつとめるK造船のI島造船所で間もなく進水することになっていた。Y氏はその都合もかねて、休暇をI島で過す計画を立てていたが、私も同行しないかと誘ってくれたのだった。

I島は、K造船差し回しの純白のランチで尾道からそう遠くはなかった。提供された洋館は、町からかなり離れた山の中腹にあり、距離を置いて、海近くに点在する白く埃りをかむった農家をヘイゲイするように建てられていた。表からは三階建、裏からは二階建の赤屋根の建物で、家の裏は山の斜面になり、松林が頂上まで這いはっていた。

日常性からの隔絶。そんな感じの中に明けられる生活が、最初の日から、私にはひどく快適に感じられた。

夕風が去り潮風が再び心地よく頬を撫で始めると、島々は、落日の海にシルエットになって浮ぶ。やがてその

島々には白い灯がポツポツつきはじめ、泳いで渡れるのではないかと思えるほどこちらへ近づいて来る。

夕食が済んで、四人の子供たちを寝かしつけたあと、私たち、Y氏と夫人と私は、くつろいで酒を飲んだ。自分が酒に強いのだと知って驚いたのもあの時だった。

Y氏は三十六、七歳で、典型的なアングロサクソンの容貌をしていた。視線があうたびに、彼は碧い眼に人なつこい微笑を浮べる。あの淡い金髪に一度指をすっと通して梳いてみたい。私はなんだかそう思ったことがあった。

夫人はY氏の肩にもたれ、濃い栗色の髪を彼のもてあそぶのにまかせながら、窓の外を流れる小舟の灯に見入っていた。小柄な体に、その栗色の髪が長い。見開くと黒眼がちな瞳に、どこことなくラテン系の血が混っているのが感じられた。

日になんとか、私は居間の窓から、様々に色を変える海と、点在する島々と、そして海に続く空とを飽かず眺めた。そんな中で、気づかぬ中に、私の住む町は遠くなっていたのだろうか。松木からの絵葉書を受けとったとき、ここに来てもう五日もたっていることに気付く、私はひどく驚いたものだった。

絵葉書には、ありきたりのことしか書かれていなかった。が、最後に、二行ほど、お元気ですか。あなたが来られなくて残念です。筆子。と書き添えてあるのを眼にしたとき、私はなぜか眼がうるんでくるのをどうしようもなかった。

私が自分自身の奇妙な分裂と結合を味わい始めたのはその翌日からであった。

突然両肩をぐぐっと押えられ、虚をつかれた私は、塩辛い水を勢いよく飲み込んだ。一回転してようやく水面に顔を上げた私の眼に、眼尻に深く皺を寄せたY氏のひどくいたずらっぽい顔が飛び込んできた。私はY氏がいつランチから水へ潜ったのか、全く気付かなかった。Y



氏のいたずらっぽい笑顔に、私は今までになく強い親しみを憶えた。どうか呼吸ができるようになった私は、なんとかY氏にも同じ思いをさせてやろうとしたが、Y氏の体も泳ぎも私の手におえる代物ではなかった。いさぎよくあきらめ、私はY氏と並んで岸までゆっくり泳いでいった。山影を映して、青緑に透き通った水は、海水浴客の蹴り上げた白砂で、うっすら濁っていた。

ランチの上では西瓜が割られ、K造船の若者たちが四、五人、賑やかに騒ぎながら、もうほうばり始めていた。一片の西瓜に氷のかけらを数片突きさし、私は水の中のY氏に手渡した。

「とても親切ですね」

「いいえ、どういたしまして」

体からしづくを垂らしたまま、私は船べりにもたれ、ほとんど種のない、まるで人工甘味料を注射したような、真赤な西瓜を口に運んだ。

突然抱きあげられた。Y氏だった。自分の体がこんなにも軽々と持ち上げられたのに驚くと同時に、笑いさざめく周りの若者たちを強く意識しながらも、私は、Y氏

の大きく分厚い掌の感触を一瞬楽しんでいた。Y氏はすばやく、それでいて丁寧な、私をまだ西瓜の残る樽へ運び、尻からその中へ落し込んだ。樽にはまだ氷の塊が残っており、私は派手な悲鳴をあげた。そして、そのままの姿勢でY氏を睨み、痺れるような冷さの中で、私は残りの西瓜をゆっくりたிரらげ始めた。

私の予期しない抵抗に、はじめいたずらの効めを楽しんでいたY氏の顔に戸惑いが浮んだ。

「ドウモ、スミマセンネ」

日本語で謝り、再び私をかえ上げながら、「こんな頑固な娘は見たことがない」Y氏は私の耳元で囁いた。

「私も見たことがないわ」

秘密めいた冗談のように、私も囁き返し、冷えた体を温めるために海に飛び込んだ。私は深く水に沈み込みながら、空高く飛翔するような自分を感じた。

夕方、ランチは、あくまで穏かな落日の中に金色の波をたてながら帰路についた。

私の心は、静かに昂ぶり始めていた。私はそれを知りながら無視しようとしていた。それでいながら、Y氏との顔を合わすたびに、私の瞳はうるみ、私の頬は意志に逆うのだった。松木のことから去ってしまったわけではなかった。だが、あの絵葉書に、「お元気ですか」と笹子に書かせた無神経さのゆえに、Y氏とのことで意志に逆う自分の肉体をとがめる気持にはならなかった。

二日のちY氏は、ほとんど出来あがった船の関係者を数名、洋館へ客として迎えた。その晩私はゆかたを着た。給士として幾分か恰好がつく上に、あの木綿の感触が、私は嫌いではな



★神戸の催し物ごあんない★ <10月>

＜音楽＞

★エッセンバッハ ピアノ独奏会

10月3日(金) PM6:30 曲目／モーツァルト「ソナタへ長調K.332」「ソナタ変ロ長調K.333」

シューマン「間奏曲OP.4」「アベック変奏曲OP.1」

入場料 ¥1,500、1,200、900、600 (芸術特別料金)

兵庫県主催 於 神戸国際会館

★坂本スミ子と東京キューバンボーイズ

10月6日(月) PM6:30 曲目／「マラゲーニヤ」「グ  
ラナダ」「タブー」「五木の子守唄」ほか民音10月例会

会費 ¥520 於 神戸国際会館

★オペラ「椿姫」(総天然色映画)

10月8日(水) PM6:30 出演／ローマ歌劇団、管弦楽  
団 合唱団 バレエ団 アンナ・モッフォ 主演指揮／ジ  
ュゼッペ・パターネ 監督／マリオ・ランフランキ

入場料 S ¥1,300 A ¥1,000 B ¥800 (学生 ¥500) 神戸新聞会  
館主催 於 神戸国際会館

★森進一リサイタル

10月13日(月) PM3:00 6:30  
曲目／「年上の女」「港町ブル  
ース」「花と蝶」ほか 入場料  
S ¥1,300 A ¥1,000 B ¥800  
神戸新聞会館主催 於 神戸国際会  
館



★デューク・エイセス

10月14日(火) PM6:30 曲目／「ダニーボーイ」

「ある恋の物語」「サニー」「女ひとり」「いい湯だな」

「別れた人」入場料 S ¥800 A ¥650 B ¥500

神戸新聞会館主催 於 神戸国際会館

★魅惑のピアニストカーメン・キャパレロ

10月15日(水) PM6:30 レパートリー／「愛情物語」

「モア」「トナイト」「禁じられた遊び」ほか

民音10月例会 会費 ¥750 於 神戸国際会館

＜演劇＞

★文学座公演「阿Q外伝」

10月17、18、19日 PM6:15 作／宮本研 演出／木村  
光一 出演／杉村春子、北村和夫ほか 神戸労演10月例会

会費 ¥600 於 神戸国際会館

＜舞踊＞

★ロイヤル・フェスティバル「白鳥の湖」(全幕)＜写真＞  
10月21日(火) PM6:30 出演／ロンドン・フェス  
ティバル・バレエ団／入場料 A3,300 B2,800 C2,500

D2,200 E1,600 F1,000

兵庫県主催 於 神戸国際会館

★牧創作舞踊研究所 劇団テアトロ・パン合同公演

10月26日(日) PM12:30 6:00

第Ⅰ部 創作バレエ・リサイタル

第Ⅱ部 アーサー・ローレンツ作「旅情」

入場料 ¥300 於 神戸国際会館

＜演芸＞

★東西浪曲名人大会

10月3日(金) AM11:00 PM4:30

出演／浪花家辰造 篠田 実 中村富士男 天光軒満月

王川勝正ほか 特別席 ¥1,000 一等席 ¥800 二等席 ¥600

神戸新聞会館主催 於 神戸国際会館

私はY氏の掌から浸み込んでくる温かさを、甘く快く  
受け止めていたが、着慣れぬゆかたのため、勢いについ  
ていけず、思わず足をもつれさせてしまった。その瞬間

声あげた。  
通りには通る車のあるところまで、私達は石段を下った。  
車が走り去ったあと、月明りの中でY氏は娘と私の肩  
をその大きな手で左右に強く抱き、「イチ、ニ、イチ、  
ニ」と、はしゃいだ若々しい掛声をかけながら、狭い石  
段を足ばやに登った。十歳の娘は快活な細く透った笑い  
声あげた。

客を送り出すときに、Y氏は長女と私を誘った。海岸  
通りに駐めてある車のところまで、私達は石段を下った。  
車が走り去ったあと、月明りの中でY氏は娘と私の肩  
をその大きな手で左右に強く抱き、「イチ、ニ、イチ、  
ニ」と、はしゃいだ若々しい掛声をかけながら、狭い石  
段を足ばやに登った。十歳の娘は快活な細く透った笑い  
声あげた。

った。

晩餐のあと、皆はソファに座を移した。役目を終え、

私もそのひとつに腰をおろしたが、息苦しさが波のよう

に押しよせ、グラスを持つ手は膝の上でひどく落ち着か

なかった。私はY氏と視線がぶつかるのを注意深く避け

ていた。私が眼を向けさえすれば、あの眼尻に深く皺の

よる碧眼がすかさず微笑みかけてくることは判っていた

から。そして、Y夫人はそれを充分承知しているかのよ

うであり、それでいて決して微笑みを絶やさなかったか

ら。

Y氏の手が私の脇の下に差し込まれていた。

私の体を支えるため素肌の乳房に触れている指に驚

き、私は反射的に体をずらせた。Y氏の指も一瞬の戸惑

いのあと、すっとそこを離れた。

私は身八ツ口存在をまったく忘れていた。小憎らし

い場所にある絶妙な窓。偶然は、ひどく新鮮な驚きだっ

た。体中を突き抜ける痛みにも似たもの。動悸。私はY

氏に気付かれないように、歯をくいしばって、余韻を味

わった。

その夜、私はなかなか寝つかなかった。あとから横の

ベッドに潜り込み、早々に寝ついてしまった長女の、い

つものように掛シーツからはみ出した、まだ幼さの残っ

た裸の白い下半身に、窓から深くさし込んだ月の光が、

やわらかな影を描いていた。私はその幼い体を見つめな

がら、松木のことを思い出していた。私の中で薄れかけ

ていた松木の影は、そのやわらかな影よりもなお淡いも

のに変わってしまった。

△つづく▽



# 愛読者 サロン



★小生、志を果すまではと張り切って上京したもの、休むともなるとすっ飛んで帰ってくる一学生です。それも我が甘えん坊根性もさることながら、神戸の一種独特な魅力によるところが大きなだと思っている次第。その一種独特な魅力を「神戸っ子」が毎号楽しく教えてくれます。それから、岡田さんのマンガで最近の街誌シリーズは特に傑作ですね。来月号を楽しみにしております。これからは、神戸っ子のための「神戸っ子」にとどまらない、より魅力に溢れた雑誌になるよう期待しております。(神戸市 岩野敏夫)★今夏新聞のスポーツ面を賑わした高校野球史上初の決勝戦再試合。甲子園大会球史を飾った松山商、三沢

の優勝戦の時に味わったあの興奮も覚めやらぬうちにはや九月である。時は人を無復して流れゆく。あの日球場を埋めた大観衆の熱気あふれた限らない声援も、また人を、時を変えて球場を埋めることだろう。最近、学生の遺稿集がリバイバルでよく売れているという。死が「カッコイイ」というのだ。同じ現代に生きる若者でありながら何というところか。死とは人間に残された最後の余地ではないか。私は20才。人が死に至る迄の過程を知る由もないが、死をカッコイイとみるのは現実目を見向けない、見ようとしなかった。私は生きている。八尾崎 斎藤マキ★今度新しく「神戸のうまいもん」とドリンキングの地図がつくられたこと感激です。切り抜き、持ち運びに便利でいつもポケットにしのばせて使っています。ところで、ちょっと気がいりますが、あの地図にはまちがいがありません。もう一度よく確かめて下さい。△瀧区 一読者▽

## 発行にいろいろとお世話いただいた方がた

柏嘉嘉金大小岡岡岡牛上榎石井石乾砂青荒茂朝安  
井納納井淵野根崎部崎尾田並野野野木田木奈部  
健毅正元ツ一真 伊真吉将正成左信豊 重 長 正  
一六治彦ム夫造忠子一朗雄一明門一彦仁雄晃平隆夫

玉田田田滝滝竹角砂塩新白雀坂阪古後上小小小  
井中中村宮川川中南田路谷川部口本林藤林林泉林磯

健寛孝虎勝清 猛重義秀 昌干 喜末英秀徳芳良  
操郎次介彦二一郎夫民孝雄渥一雄勝楽二一雄一夫平

神行山若百村宮宮松福深原畑野南中中西直外竹津  
青吉口杉崎上地崎井富水 口沢部西巻脇木島馬高  
年哉泰 辰正裏辰高芳惣泰専忠幸佳 太健準和  
議所女弘慧雄郎二雄男美吉良郎郎郎三勝弘親郎吉助一

## 後編 集



★秋空に建つ貿易センタービルの完成間近か。有岡助役の急死、原口市長の六週断念と、市長選挙を迎えて新たな展開がくりひろげられそう。原口市長に神戸の名誉市民の称号を、という話題が登っているが、名誉市民第一号に賭けた原口市長の執念は、神戸っ子自身、一番見習うべきフロンティア・スピリット。世界的なスケールを十分に受け継ぎたいものである。セントルマン有岡助役のご冥福を祈ります。(小泉康夫)★今より神戸のチームURRのスタッフで世界のショッピングセンターと都市雑誌の連載をはじめます。世界の情報を特に抜粋して、神戸の町づくりにのモデルケースにしよう。ぜひご愛読下さい。★福田忠次先生の猫面殿の住人たちをみています。猫の暮らしが三日した

## 神戸っ子こあんない



★月刊神戸っ子をお読みになりたい皆さま、また神戸を離れているお友達に、神戸の香りをとお届けになりたい方は、編集室までお申込み下さい。さっそくお送りいたします。

6月分 六五〇円  
1年分 一三〇〇円  
(送料共) ◎月刊神戸っ子に紹介されている、神戸の銘店には、お客さまへのサービスとして神戸っ子がおかれています。  
◎月刊神戸っ子をお買求めの時には左の本屋さんへどうぞ。  
コウベックスさんちかタウン  
漢口堂三宮店 京町筋

い々とホンマに思った。ネコロジストの先生を見るにつけ、猫好きの私はチントンシヤンと三味線の稽古をしているわが身がうらめしくなった。ニヤンよ許せ! (小泉美喜子)★飽くことなく誰を追いかけるグッピーの容姿と生殖能力に驚嘆し、快楽と程遠いところで産みの苦しみを味わう誰に打たれる。自然の摂理を乗り越えるだけが人間の理性と感性の本能のようだ。(岡本邦彦)★今月の街のおしやべりはサフリーマコース。仕事に追われて給料を消化しきれない者。五時の鐘が軽い懐にせつなく響く者。皆、それぞれに悩み(?)はあるもの。△宮本律子▽★人間サマより大切にされるカタツムリを見てウラヤマシイと思うことなれ。しかし、夜の自由散歩とはやはりうらやましいことよ。初めてのインタビューは、「アツ」という間もなくスベッシュヤリストのお話が始まり、まごころこけるうちに終わってしまった。△クボヨシコ▽

流泉書房 センター街  
文洋堂 新聞会館1階  
日東館 大丸前  
宝文堂 元町通3丁目  
宝文堂 元町通5丁目  
小南堂 国鉄本山駅北口  
宝盛堂 阪神御影南側  
小原光文堂 国鉄住吉駅北口  
隆司書房 新聞地本通り  
◎月刊神戸っ子に広告を掲載して、お店を、また商品をご紹介なさりたい方は、月刊神戸っ子編集室へお申込み下さい。  
◎神戸百貨店の事務局も月刊神戸っ子の編集室内にあります。

神戸っ子NO.102  
発行/昭和44年10月1日  
\*編集・発行/小泉康夫  
\*発行所・神戸っ子編集室  
神戸市葺合区八幡通5ノ96  
K・Eビル4階  
電話27037・8072  
頒価・100円